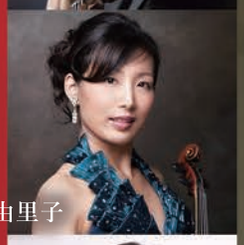
Jcity TOKYO

深山尚久


丸山由里子

松崎敦子

ヴィルフリート・シュトレーレ

三宅 進

山崎みのり

Christmas Special Concert 2018

ベルリンフィル黄金時代を支えたヴィオラ界の巨匠
ヴィルフリート・シュトレーレと日本の仲間達

12月14日(金)18:30開演

〈曲目〉
ブラームス
弦楽六重奏曲第1番 変ロ長調op.18-1 より抜粋
モーツァルト
協奏交響曲 K.365(弦楽六重奏版) より抜粋
※曲目は変更になる場合がございます。

JINBOCHO MITSUI BUILDING
神保町三井ビルディング
エントランス北ホール

入場無料

カラヤン・アバド ベルリンフィルハーモニー黄金時代を支えた
ヴィオラの巨匠 ヴィルフリート・シュトレーレと
現役世界レベルのアーティストの饗演

主催：神保町三井ビルディング管理組合／ジェイシティ東京まちづくりフォーラム
後援：三井不動産株式会社
協力：株式会社MATインターナショナル
お問合せ：ミュージックアカデミー東京 j-cembalo2018@music-academy.jp

［神保町三井ビルディング］千代田区神田神保町1-105
（都営三田線・新宿線「神保町」駅A9出口より徒歩1分／東京メトロ東西線「竹橋」駅3b出口より徒歩5分／東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅B7出口より徒歩5分／ JR「御茶ノ水」駅御茶ノ水橋口より徒歩8分）

1st vn

深山尚久

東京藝術大学から同大学院修了。
文化庁海外芸術家派遣研修員としてドイツに留学。
大学院在学中より東京フィルのコンサートマスターに就任。
以来、新星日響、札響、広響、神奈川フィル、東響のコンサートマスターを歴任。国内ほとんどのプロ・オーケストラの客演コンサートマスターを務める。
1998年サントリーホールにて3曲の協奏曲を一夜で演奏する『ヴァイオリン・コンチェルトの夕べ』を東京交響楽団と田中良和の指揮で開催。
DVD「ヴァイオリン・テクニカル・クリニック」、CD「愛の言葉」、著書「目からウロコのポイントチェック」等を発表。
武蔵野音楽大学教授、深山アカデミー主宰、日本弦楽指導者協会理事・副会長。

2nd vn

丸山由里子

武蔵野音楽大学附属高等学校、武蔵野音楽大学卒業、ドイツ国立フライブルク音楽大学大学院修了。
第7回練馬新人演奏会オーディションにて最優秀を受賞。
ドイツ・メンデルスゾーンコンクール(フライブルク)第3位入賞。
モーツァルトアカデミーマスターコース(ポーランド・クラコフ)に全額奨学生として参加する。ソロリサイタルや、ピアノトリオコンサートを行うなど室内楽との両面で幅広く演奏活動を行う一方、「おんがくなかま」のメンバーとして、親子で楽しめるコンサートを企画し、活動している。2000年より15年間に渡り故クルト・グントナー氏のレッスン通訳も務める。これまでにヴァイオリンを押鐘鈴子、掛谷洋三、レイ・ハークス、西川重三、大谷康子、ニコラス・チュマチェンコ、室内楽をウルリッヒ・コッホの各氏に師事。
現在、武蔵野音楽大学、武蔵野音楽大学附属高等学校、武蔵野音楽大学附属音楽教室、埼玉県立芸術総合高等学校講師。

1st vla

ヴィルフリート・シュトレーレ

エミール・ケッシンガー、ウルリヒ・コッホ、ティボール・ヴァルガの各氏に師事した後、20歳の若さでカラヤン率いるベルリンフィルハーモニー管弦楽団にヴィオラ奏者として入団し、その後1984年から2013年までソロ首席ヴィオラ奏者を務めた。
2001年よりベルリン芸術大学とカラヤンアカデミーで教授職にあり、多くの弟子がベルリンフィルをはじめウィーン、ミュンヘン、ドレスデン、ハンブルグ、その他各地のオーケストラでヴィオラ奏者として活躍している。
ヨーロッパ各国やアメリカ合衆国、ロシア、中国、日本等でマスタークラスを開催。一方 室内楽奏者としても高評価され、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団元コンサートマスターのトーマス・ブランディスと結成したブランディスカルテットでは25年間ヴィオラ奏者として活動した。
現在は バレンボイム-サイードアカデミーの教授として後進の指導にあたっている。

2nd vla

松崎敦子(キール歌劇場 首席ヴィオラ)

4歳よりヴァイオリンを始め、東京藝術大学音楽学部付属高校へ入学時にヴィオラへ転向。
東京藝術大学音楽学部を卒業後、同大学非常勤講師を経て2001年よりベルリン芸術大学、2006年よりフランクフルト音楽大学古楽科に在籍中にベルリン・ドイツ響、ベルリン放送響、ハイデルベルク歌劇場にてアカデミー生として研鑽を積む。
現在キール市立歌劇場でヴィオラ奏者を勤めるかたわら、バロックヴィオラやヴィオラ・ダ・モーレ奏者として古楽の分野においても活動中。
また国内でも神奈川フィル、横浜シンフォニエッタにおいて客演首席奏者を務める。
第11回国際ブラームスコンクールヴィオラ部門セミファイナリスト。
これまでに、ヴィオラを菅沼準二、Wilfried Strehle、バロックヴィオラをPetra Muellejansの各氏に師事。

1st vc

三宅 進

桐朋学園、インディアナ大学にてヤーノシュ・シュタルケル、木越洋、安田謙一郎の諸氏の薫陶をうける。新ヴィヴァルディ合奏団、群馬交響楽団首席チェロ奏者、イソ弦楽四重奏団チェリストを歴任。
現在はソリストとしてリサイタル、室内楽等のほか、世界的外来アーティストとの共演など幅広い分野で活躍している。海外での公演も多く、ヨーロッパ、アメリカ、アジア各地でのリサイタル、オケの共演などはいずれも高い評価を受けている。
公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団ソロ首席奏者。
武蔵野音楽大学非常勤講師。
音楽監督を務める仙台市宮城野区文化センター主催の室内楽シリーズ「Music From PaToNa」が2015年第4回サントリー＆ウィーンフィル音楽復興祈念賞」を受賞。

2nd vc

山﨑みのり

武蔵野音楽大学卒業、同大学院首席修了。在学中より数々の選抜演奏会に出演。第37回北九州芸術祭クラシックコンサート大賞(全部門総合第1位)受賞。
ベルギー・アルデンビーゼン古城音楽祭、ハンガリー・ブダペスト・スプリング・フェスティヴァル等海外音楽祭に招聘され出演。V.アシュケナージ氏監修「ラフマニノフ・プロジェクト」にてE.アシュケナージ氏、G.フェイギン氏と共演、各紙にて好評を博す。K.グントナー氏指揮同音楽大学室内管弦楽団とチェロ協奏曲を共演。
チェロを清水勝雄、三木敬之、C.ドル、藤森亮一の各氏に師事。
ソロ、また国内外の著名な演奏家との室内楽等で活発な演奏活動を行う他、音楽コンクール、国際音楽オーディション等の審査員を務める。またテレビドラマにおけるチェロシーンの出演、監修なども多数担当。
現在、武蔵野音楽大学、及び同大学附属音楽教室非常勤講師。